

公開講演会

「シリアにおける教育と宗教」

日 時 / 2004年3月29日(月) 午後2時-4時
会 場 / 同志社大学 今出川キャンパス 神学館 礼拝堂
講 師 / サッラーフッディーン・クフタロウ(シャイフ・アフマド・クフタロウ財団総長)
コメント / 中田 考(同志社大学神学研究科教授)
司 会 / 森 孝一(同志社大学神学研究科教授)

講演の概要

伝統的にイスラーム社会でありながら、多くのキリスト教徒人口を抱えるシリアでの宗教教育の試みについて、イスラーム法学者のサッラーフッディーン・クフタロウ師が講演した。講師のクフタロウ師は、シリア、ダマスカスで、シャイフ・アフマド・クフタロウ財団総長、アブヌール・モスク導師、宣教善導シャリーア・アカデミー学長を兼任している。専門はイスラーム学、法学。2000年の国連ミレニアム世界宗教指導者会議出席など、国内外で宗教間対話に精力的に取り組んでいる。

スケジュール

2:00 ~ 2:05 挨拶
2:05 ~ 3:00 サッラーフッディーン・クフタロウ「シリアにおける教育と宗教」
3:00 ~ 3:15 休憩
3:15 ~ 3:30 コメント 中田 考
3:30 ~ 4:00 質疑応答・ディスカッション



「シリアにおける教育と宗教」

シャイフ・アフマド・クフタロウ財団総長
サッラーフディーン・クフタロウ
Salah Eddin Kufaro



慈愛あまねく慈悲深きアッラーの御名において

あらゆる世界の主、アッラーにこそすべての称讃が、そしてすべての預言者や使徒たちに祝福と平安がありますように。

宗教教育の大切さ

シリアにおける宗教教育の大切さは、歴史的事実を通して知ることができます。シャーム地方の国々(訳注—現在のシリア、パレスチナ、ヨルダン、レバノン)には、何人もの預言者や使徒たちに下された天啓の教えやメッセージがもたらされ、古代文明がそこに生まれ起こって発達したということを歴史的事実を通して実証しております。

シャーム地方に生きる人々は、今も自分たちのルーツを誇りに思い、文化的・宗教的アイデンティティや文明的遺産を大切にしています。宗教的価値観や高い道徳観をさらに浸透させ、充足と正義、安定に満ち、不義や憎しみ、抑圧のない社会福祉保障の整った人間社会を築くために、全力で邁進しているのです。

シャーム地方を訪れる人は誰でも、社会関係や一般大衆の生活の中で宗教的生活というものがどれほど深く根付いているかを感じることができるでしょう。人々の日々の生活の中において、また、各地に広がる遺跡やモスク、教会、寺院、学校など多くのものを通して実際に目の当たりにすることができるはずで、また、現地の思想や礼節、文化や芸術、社会的人間関係などを通して気づいていただけるでしょう。

今日、宗教的教育の重要性は増すばかりです。精神的な空虚感の増大を前に、人間社会の安全と繁栄を実現するために欠かせない精神的な生活と倫理観の向上という課題に応える必要性からでもあります。安全で豊かな人間社会、それは唯一の神を知り、愛し、仕えることによって達成されません。必要なのは、人間関係、経済状態、公益の調節および改善、そして貧窮者や孤児援助、病人や戦争の被害者の治療のために慈善団体等を設立することでしょう。

そもそもシリア(シャーム地方)における宗教的生活というものは、歴史的にその当初から今日まで存在し続けるもので、やがて去り行くような一過性の新しい流行ではありません。宗教的生活は、生きとし生けるものを守り、人間生活の様々な領域における発展と改善に貢献するといった建設的な役割を果たしてきたのです。また、人間生活の向上と繁栄に寄与する建設的で進歩発展を促す天啓の教えやメッセージの役割にもっと注目するには、客観的な真理を認識することが欠かせません。社会建設にあたっての人類全体の希望を実現することを目標とするためにもです。

その(客観的な)真理とは、天より啓示された教えやメッセージの源は一つであり、その本質と真の姿は一つだということです。ただ唯一の神を信じ、審判の日や死後の世界を信じ、天使や諸啓典の存在を信じ、定命を信じるといったことはもちろんのこと、人格向上や善行を勧め、善き行いや生きとし生けるものすべてへの心尽くしへと人々に呼びか

けることにおいて、天啓の教えはそれぞれお互いに分かち合うところが多々あります。

天啓の教えやメッセージの使命、それは人々を闇から光へ、無知から知へと誘い、不安や恐れ、不幸の世界から、安らぎと安全、幸福の世界へと誘うことです。

歴史的事実がそれを証明してくれています。天啓の教えやメッセージが、人間同士の同胞愛を実現させ、流血を防ぎ、財産を守り、権利と義務のバランスをとり、人間関係に秩序をもたらし、正義と平等、安全と平和、人間の幸福を成就させることにおいていかに役立つかを、歴史が証明してくれています。そしてこの高貴なる使命は、あらゆる時と場所において、自由かつ高潔な選ばれし者たちの使命でなければならないはずです。

こうしたことを実現するには、虚心坦懐に、誠実かつ粘り強い姿勢で天啓の教えやメッセージに立ち戻らなければなりません。まがい物から清められた、その本来の純粋な教えに立ち戻らなければならないのです。あいにく天啓の教えは混入物によって本来の美しさを損なわれ、善良な生き方を確立し、害となるものを排して公益を実現するといった、その本来の高貴な目的を達成する力は弱められてしまいました。ですから往々にして、宗教とそれに帰属する信徒たちとは、別物とみなされるようになってしまったのもまた事実です。

あるアラブの詩人はこうした事実を評して言っています。

宗教が神に助けを求めた信徒らが

わたしに不義をなすのです

わたしの名を語りはしますが、あなた様の真理に誓ってわたしは知らないのです

彼らを誰一人として、

そして彼らもわたしを知らないのです

ダマスカスにおける諸学校の起こり

当初ムスリムたちは、モスクを礼拝や崇拜行為、クルアーンやクルアーン学、ハディースやハディース学、アラビア語学を習得する場所として活用していました。その後ダマスカスでは、西暦12世紀初頭になって、ラシャア・ブン・ナズーフ・ブン・マーシャーアッラーフ・アッ=ディマシュキーがラシャアーン学院として知られる学校を設立してクルアーン学習の館としました。タラブルスでは、ファーティマ朝に仕える当地の裁判官アル=ハサン・ブン・アンマールが英知の館を、あるいはそれに似た大学のようなものを設立し、西暦11世紀末にエジプトではアル=ハーキム・ビ=アムリ=ツラーが英知の館を設立しています。

しかし、史実として知ることのできるシャーム地方での学校設立の起こりは、西暦3世紀にまで遡り、4世紀、5世紀にはその存在がよく知られるようになったといえます。もちろん、ここでいづ学校とは、学生が集って勉学に励み、彼ら学生に知的物的援助を惜しみなく与える、という組織的な学術機関を意味します。学生に教授、指導するのは、学者や教師の中でも優秀かつ誠実な者たちであり、学校設立のための資金援助をした人物が教育者として妥当とみなす条件に合う者たちが選ばれます。それらの講師陣は、神学・人文的学問知識においてそれぞれが得意とする分野に応じて、それに相応しいだけの給与を得ていたのです。

シャームにおける学校建設に力を入れたのは、解放者(アル=ファーティフ)の異名をもつヌールッディーン・マフムード・ブン・ザンギーでした。彼は、各地から選りすぐりの学者たちを招聘し、彼ら碩学たちのために学校を建設し、「シャーム(ダマスカス)は彼の時代に学者や法学者の定住地となった」と言われるほど、惜しみない援助を与えたのでした。

彼が援助した学校の一部を挙げると

アスルーニーヤ学院:ダマスカスのほかにモミンバ



ジヤハマー、ホムスやバアルバックにも分校が造られています。ヌールッディーン時代に法学の大家であった法学者 スインジャー・ブン・シャラフッディーン・ブン・アビー・アスルーン の名にちなんで名付けられました。

ダマスカスのアーディリーヤ学院:法学者 クトゥブッディーン・アン＝ナイサーブリー が学長を務めました。西暦1269年にダマスカスを訪れた大旅行家イブン・ジュバイルは、「ダマスカスには20ほどの学校があり、そこで学ぶ者たちの生活を保障している。」と言っており、そういった学校の存在を誇るべきイスラームの偉業の一つとして数えています。学校にはそれぞれ庭園や未開の土地などワクス(寄進地)として特別に寄進された財産があり、国中がワクフで埋め尽くされかねないほどであったといえます。また学校やモスクが新たに完成すると、国の統治者であるスルターンがそのために新たな寄進地を定め、それによって寄宿生や関係者が養われたのです。

それから後もダマスカスでは特別な専門課程を擁する学校が盛んに設立され、イスラーム学の分野では四つの法学派を学ぶことを専門とする学校や、クルアーンの読誦諸流派やハディース学のための学校ができました。同時にまた医学や薬学を専門とする学校や、建築家や大工を輩出する土木建築の学校もありましたし、天文学や地理学の専門校の存在はもちろんのこと、ヒジュラ暦6世紀のダマスカスでは、ウマウイー・モスクで アブー・シャーマ が直々に歴史学を教授するほどであったといえます。

こうした学校にはそれぞれ教育方針や規律があり、生徒は何ヶ月かの一定期間勉学に勤しみ、学んだことを試験されました。教壇や説法壇に立つ者、あるいは礼拝導師としての資格は、卒業後もさらなる学問研鑽を怠らないことを見込まれ、その学生の指導にあたってきた教師たちに承認されなければ、指導者としての資質を与えられなかったということです。

それからも学校の建設は続き、時を経て国の各

地に広がっていきました。イスラームの法学的な一部の特例以外は、ムスリムとそうでない者を区別しない独特の教育カリキュラムが組み立てられ、学問の先端をゆく学術運動が確立したのです。ダマスカスにはモスクもあれば教会もあり、ムスリムの学者や導師、教師を輩出するイスラーム学の専門校もあれば、修道士や司祭を数多く輩出するキリスト教の神学校もあります。共通の祖国を築くために、キリスト者の子弟が同胞であるムスリムの子弟と共に足並みを揃えたのです。言及しておくべきは、ダマスカスという町はイスラーム史上二代目のカリフであるウマル・ブン・アル＝ハッターブの時代にイスラームが到来して以来、ずっと例外的なほどムスリムとキリスト教徒が共に生きてきたところであるということでしょう。歴史が伝えるには、当時ダマスカスには15の教会があり、信徒たちの長ウマル・ブン・アル＝ハッターブはキリスト教徒たちの安全を保障し、彼らの財産を認める書を書いて送ったといえます。

中でも一番の証拠として挙げられるのは、ダマスカス開城時にムスリム軍の指揮官であったハーリド・ブン・アル＝ワリードの書簡の内容でしょう。

「慈愛あまねく慈悲深きアッラーの御名において。これはダマスカス開城の日にハーリド・ブン・アル＝ワリードがダマスカスの民に与えるものである。ダマスカスの民には命と財産の安全を約束しよう。彼らの教会も破壊されることはなく、住居としての教会の使用禁止を命ぜられるものでもない。それについては、アッラーとその御使い、カリフと信徒たちが責任をもって保障するものである。」

こうしたことから分かるように、かつてシリアでの教育はこうした確固たる地盤を基に成り立っていました。ですから全ての人が、純粋な知識の前では真理探究の徒であり、知識を、あるいは霊的な糧を得ようとする真剣な弟子であったわけです。宗教的専門教育に関して言えば、私たち信仰を持つ者は、皆が一同に会することのできる交流点があるはずで、神の唯一性や、人類の幸福と平安

のために万物の主のメッセージを伝えた預言者や使徒たちの同胞愛といった真実は、天啓の教えを信じる人であれば誰もが頷いてくれるでしょう。

ですから教育の方針としては、宗教的社会のあらゆる階層にとって、理想的な交流点を具現化することに力を入れているのがお分かりいただけると思います。知識人や学生といった専門教育に関わる者に、国が指定した普通教育をも視野に入れて関心を持たせることで、共通の立場で同じ目的意識を持てるようになっていきます。

初等、中等、高等教育課程でイスラームとキリスト教はどのように教えられているか？

言うまでもなく、初等、中等、高等教育課程は、二つの教育機関に属しています。一つは公立教育機関であり、正式教育と評されるものです。ムスリムの生徒には宗教科目としてイスラームが教えられ、キリスト教徒の生徒にはキリスト教が教えられます。いずれも段階を経て教えられる一般的な内容で、この時期における生徒が最低限知っておくべき教義や法学的規律はもちろんのこと、人格形成期にある生徒の道徳観や礼儀礼節の向上を目指すためのものです。すべては、分派主義の排斥、光源を同じくする天啓宗教としての歩み寄りを強調し、お互いを見方を近づけることを目的としています。

二つ目は、私立の教育機関です。国や関係諸庁の監督のもとに、イスラーム学そのものを専門的に教えることを目指し、初等、中等、高等課程に沿った専門教育を施しています。ちなみにこうした私立のイスラーム神学校は公立普通教育との両立を図り、特に中学、高校の生徒は卒業時に正式な普通科の卒業証書も取れるようにイスラーム学諸科目に加えて一般の普通科目も学んでいます。

こうした両立方針には、私立の学生あるいは普通科以外の学生と普通科の学生を結びつける効果があり、あらゆる分野の学問に関心を持って教育を総合的観点から眺めるといふ自覚をもった世代

を育てるのに役立っています。

公立および私立の教育におけるイスラームとキリスト教の比較

公立および私立の教育におけるイスラームとキリスト教の比較・・・ここに注目してみましょう。先ほどシリアにおけるイスラームとキリスト教は見事に共存していると言いましたように、神学や法学の一部といった枠組みの中でしか両者に違いを見出すことはできないのです。しかもそれらの違いは、「アッラーのほかには神はなく 神はただ唯一であり イエスは神の使徒にして、ムハンマドは神の使徒である。」という両者にとって最も大切な共通項を前にすれば、益々影をひそめてしまうものに過ぎません。特にその点を踏まえて、イスラームおよびキリスト教両者の小学校から高校までの宗教という科目の授業方針をご覧くだされば、分かっていたかと思えます。他者を敬う気持ちに慣れさせ、相手のタブーに触れないようにイスラームとキリスト教それぞれの信奉者を指導して人格向上を目指しながら、双方が歩み寄れる点を強調する科目であることが、お分かりいただけるでしょう。その意味で、教育方針を定めた教育機関はそれぞれの特徴に気を配りつつも、互いの共通点を生かして調和の取れた教育方針を定めることができたと言えるでしょう。

イスラーム系教育機関の方針

その一 イスラーム学のカリキュラム

宗教学校に所属する生徒は、多々あるイスラーム諸学を把握できるようなカリキュラムのもとに、イスラーム学諸科目を学び、将来的により高度な専門課程へと進学するための基礎を学びます。

イスラーム神学校の生徒が学ぶ科目の中で最も重要なものとしては、イスラーム神学、法学、クルアーン学、スンナ学、霊知学(スーフイズム)および修身学、アラビア語学、比較宗教学、預言者伝、イスラーム史、説法学が挙げられます。そして、こうした



学問からさらに派生した様々な科目もありますが、ここでは時間の都合から割愛させていただきます。

その二 普通一般科目のカリキュラム

普通一般教育については、実学と理論に関心を示すもので、科目には例えば、物理学や化学、数学、生物学、外国語、哲学、歴史、諸技術の基本、情報処理学の基本、社会学などがあります。

イスラームは、次に挙げる諸点をその基本として、教育と学習のための総合的なシステムを確立しました。

知識というものはそれ自体が最も重要なイスラームのメッセージのひとつであり、神の命令の基本です。

天の啓示として預言者ムハンマドの心に初めて下された最初の言葉が、「読みなさい。」(クルアーン第96章第1節)であり、それに続く節で学ぶことと読むことが命ぜられているのを挙げるだけでも十分お分かりいただけるでしょう。至高の神曰く、「読みなさい。創造し給うた汝の主の御方において。血の塊から人間を創造された御方。読みなさい。汝の主は最も尊き御方。筆によって教えられ、人間に未知なるものを教えられた御方である。」(第96章第1-5節)

信仰と知識は、現世と来世において最高の位を与えられています。

クルアーンには、「汝らのうちで信じる者、そして知識を授けられし者は、位をいくつも高めよう。」(第58章第11節)とあります。

イスラームは、知識の探求をあらゆるムスリムにとっての義務としています。

ムスリムは皆、正常な理性の持ち主である限り、無知無学は許されません。それは、「知識の探求はあらゆるムスリムやムスリマにとって義務である。」という預言者ムハンマドの言葉ではっきりとされている通りです。人類史上初の「義務教育」というスローガンの実践でした。

ムスリム社会において預言者は、学習と教育の

推進運動を浸透させました。

社会の構成員一人一人が、その知識と経験を皆に伝えることによって共同体の復興に貢献する教育者となるか、あるいは知識を探し求め、知識と教養を自らに備えようとする学習者となるかというものです。ちなみにある分野での専門家も、別の学問分野では学習者となりえるということも付け加えておきましょう。

イスラームは、終わることのない学習と教育の推進運動を広めていったのです。預言者ムハンマドは言っています。「人には二種類あります。教える者か、学ぶ者です。それ以外の人はどうにもなりません。」

イスラームは、「学習」というものが限られたある一定の期間だけのものではなく、ずっと続けられるべきものだということを強調しています。

学習とは、人間が生まれる最初の瞬間から、息を引き取る最後の瞬間まで続くものです。それについて預言者ムハンマドは、教育指導においても非常に先駆的な名言とみなされる言葉を残しています。曰く、「ゆりかごから墓まで、知識を求めなさい。」

イスラームはイスラーム社会において、知識を求めることへの理解と知識向上の意欲を促進してきました。

その成果には、計り知れないものがあります。クルアーンには、「言いなさい。『わが主よ、わたしに知識を富ませてください。』と。」(第20章第114節)とありますし、イスラーム四大法学派の学祖であるシャーフイー師が言うには、「この世を望む者には知識が必要であり、あの世を望む者にも知識が必要である。両方をともに望む者にも、知識が必要なのだ。」とあります。

このようにして、イスラーム社会はその全体が知識と仕事の向上に熱意を燃やすようになり、イスラーム文明として比較的短い時間で世界に多くのよき貢献を果たすことができたのです。

教育と学習、そして神智獲得の鍵を得ようとする
ことは、たとえそれがどんな困難な状況であれ、
イスラーム的生活から姿を消すことは決してな
かった基本的なものの一つでした。

バトルの戦いが終わった時、ムスリム軍が敵対
する多神教徒軍に決定的な勝利を収めた時、敵
軍から多くの捕虜がムスリムたちのもとに舞い込
んできた時のことでした。預言者ムハンマドは捕
虜の一人一人を、10人のムスリムに読み書きを
教えることで解放したのです。

こうした史実は、イスラームの預言者が、知識と
技術によって社会を強くすることにいかに強い
関心をもっていたかを如実に物語っています。

イスラームは知識や技術をその源泉から獲得する
ことを勧めています。ですから、イスラーム史上初
期のムスリムたちにとっては常識であった学習法
も、ほかの者たちにはあまり知られていませんで
した。それは、「学問の旅」というもので、今日大学な
どから知識と技術を得るために派遣される学術使
節団の起こりのようなものと言ってよいでしょう。

ムスリムの間でよく知られている格言があります。
「たとえ中国にでも、知識を求めよ」という言葉
です。

シリアの宗教法務最高権威であるアフマド・ク
フタロウ師を筆頭とするシリアの優秀かつ積極的
な一部の学者たちは、様々な挑戦を前に現代世
界と渡り合っているだけの具体的な改善策の重
要性を悟り、「信仰する者たちよ、汝らを生かすも
のへと呼びかけられたときは、アッラーと御使いに
応えなさい。(第8章第24節)」という神の御言葉を
実践する意味で、復興と知識、革新をモットーに
活動を始めました。

また、シリアにおける宗教教育で基本とされてい
る具体的方針の最も重要な骨子は、次のようにな
っています。

極端を排した中道の精神。

「この知識(イスラームの教え)は、後に続く者た
ちの中でも誠実な者たちが背負ってゆくであろう。
彼らは極端に走る者たちの逸脱や、誤った者た
ちの迷い言、無知な者たちの勝手な解釈を斥け
る。」という預言者ムハンマドの言葉の実践。

無益な特定学派至上主義の排斥。

「宗教を分裂させて分派をつくる者たちとは、汝
はなんの関係もない」というクルアーンの文言の
実践。

同胞との歩み寄りと賛同、友好と団結を迅速に
求めること。

「汝らは皆でアッラーの絆にすがり、分裂しては
ならない。(第3章第103節)と、クルアーンにある
とおり。

知識と英知、および精神修養(悪しき囁きや慢心
から自我を清めること)の融合。

「かれこそは読み書きできぬ民の中から使徒を
遣わし、御徴を読み聞かせて民を清め、啓典と
英知を教える御方。たとえその民がかつて遠く
迷い去っていたとしても。(第62章第2節)」という
アッラーの御言葉の実践。

英知とよい語りかけによる至高のアッラーへの
宣教。

「汝の主の道へ、英知とよい語りかけをもって呼
びかけよ。そして最善のやり方で議論せよ。(第
16章第125節)」というアッラーの御言葉の実践。
共同体の公益と宣教活動支援のため、祖国の
政府関係者との協力。

「イスラーム(宗教)とスルターン(政権)とは双子の
兄弟のようなもの。片方だけでは役に立たない。
イスラームは地盤であり、スルターンは護衛といえ
よう。地盤なきものは崩され、護衛なきものは台
無しになってしまう。」というアッラーの御使いのお
言葉の実践。

ムスリム以外の者との対話に際しては、アッラーの
御言葉「言いなさい。『啓典の民よ、私たちと諸君
との間にある共通項のもとに来たまえ。』(第3章



第64節)を基本姿勢とすること。

イスラームの人間愛を明確にすること。

「アッラーよ、われらが主よ、あらゆるものの主よ、あなた様ただお一人が主であることを私は証言します。われらが主よ、あらゆるものの主よ、しもべたちは皆同胞であることを私は証言します。」それから、「人は人の兄弟です。好むと好まざるとにかかわらず。」という預言者ムハンマドの祈りと言葉にあるとおり。

イスラームの普遍性実現のための実践。

アッラーは預言者ムハンマドの使命を明らかにするにあたって、クルアーンで次のように言われています。

「われらが汝を遣わしたのは、ただただ全世界への慈悲としてである。(第21章第107節)

では、ここでシリアにおけるイスラーム神学校やイスラーム大学がその実現を目指すいくつかの目標を挙げてみましょう。

間違ったイスラームの解釈をする一部のイスラーム主義者たちに見られがちな認識の是正、およびイスラーム的な活動の善導と革新。(一部の者たちはイスラーム的遺産として残された一部の伝承の表面的な部分だけにこだわって、一般的なイスラーム教育本来の目的である個人と社会および世界の改善とはかけ離れたところにいるため)

イスラーム教育の充実と改善

人文学教育とイスラーム教育双方のカリキュラムの融合。および英知と指導、自己修養と人格向上の調和。

共同体の復興かつ変わり行く現代に対応できるだけの優れた宣教者の養成。

偏狭で極端な流れに対し、中道およびバランス感覚のとれた指導法の浸透、および定着化。

イスラーム各法学派間の歩み寄り推進、および奨励。

相互交流事業の奨励。天啓宗教の信奉者や、

様々な文化的背景を持つ人たちとの文明的な対話を重視。

文明間の対立や衝突を鼓舞する主張に対し、共存の呼びかけを奨励。

ジハードの理解を、クルアーンとスンナが示す正しい理解で知ってもらうことが肝要。

ちなみにジハードは、三種類に分かれます。

最大のジハード: 自我克服のジハードをいい、ムスリム一人一人が自らの共同体に貢献し、善良な市民となれるよう悪しき自我を清めることで、永遠の楽園に迎え入れられるに相応しい者となるよう自己を高めることをいいます。

大ジハード: アッラーへの宣教、および学習と教育、神智の普及と文明を築き上げるジハードを言います。至高のアッラー曰く、「彼らとそれで大いにジハードをしなさい。(第25章第52節)つまり、クルアーンによって彼らと対話しなさい、ということの意味します。

最小のジハード: 至高のアッラーが定めたやり方に沿って、人命と国土を守るために戦う戦争のジハードをいいますが、他国への侵略や富の略奪をいうわけではありません。

より大きな公益の実現と共同体への貢献のために、学者と国の統治者が協力して祖国の団結精神を深め、浸透させること。

改善および復興活動における方針の簡明化と段階路線の確認。

英知とよい語りかけによって人々を至高のアッラーへと近づける宣教。

イスラームは、生きとし生けるものが幸せな生活を送れるような具体的プログラムであるという真実の紹介。

できる限りの努力と誠心誠意の姿勢で、啓示の天使がもたらしたありのままの天啓本来の姿に立ち戻ること。

知的研究の邁進、およびシャリーア(アッラーの定め)の目的達成のためのイジュティハード再評価。

シリアにおける私的、公的宗教教育は、思想、文化、精神的な諸事業に大きな貢献をしています。市民の自覚向上と善導、そして社会・文明的な現状の改善に効果的な役割を演じ、イスラームとその宣教のイメージを歪めようとする極端な理解に対して、バランスのとれた良い例を示しているのです。

先にあげた中道をゆく方針は、学者、実業家、思想家、政治家たちと共に、誠実な努力の積み重ねによって60年以上もの間その先頭に立ってきたシリアの最高ムフティーの方針であり、宗教が異なる者であれ、無神論者や民族主義者、異なる主義主張や文化的背景を持つ者であれ、祖国を共にする者同士すべての者のまれに見る協力と共存という形で成果が実ったのです。そこには強制や抑圧はなく、あるのは歩み寄りと対話、社会のあらゆる階層の協力があつたのでした。

シャイフ・アフマド・クフタロウ学院には、毎年何百人もの学生が60カ国以上からやって来ては、知識や霊知を学び、英知を身につけて祖国に帰り、善を広め、よき人間社会の建設に貢献しています。

現代シリアにおけるイスラーム教育

かつてシリアでの教育は、何人かの学者たちが簡単な学校を開いてそこでイスラーム学や読み書きの基本を教えるといった簡単なものでした。それもオスマン帝国時代における、政府指導の公共教育不在のもとでは、致し方なかったことでしょう。

それからシリアではオスマン帝国末期、1916年のオスマン帝国からの独立とハーシム家アラブ国家の成立、そしてそれに続く時代へと時を経るにつれて教育システムは発展していきました。

今日のシリアには、公的なイスラーム教育機関が中学、高校、大学レベルであり、公的機関が監督し、慈善団体を通して慈善家が資金援助をするという準公的イスラーム教育機関もあります。シリアの学者たちは、公的、準公的イスラーム教育機関から輩出されるというわけです。

共同体へのイスラーム教育

共同体へのイスラーム教育は、各種マスメディアを通して、また各モスクでの授業や金曜日の説法と集合礼拝を通して行われています。

シリアでの教育の一例としての シャイフ・アフマド・クフタロウ学院紹介

この学院の設立は、百年以上も前に現最高ムフティーの父にあたるアミン・クフターロー師が管理を始めた時にまで遡ります。当時の学院は、一日五回の礼拝が執り行われる小さな礼拝所に過ぎませんでした。アミン師が指導を始め、知識と修身を融合させながらイスラーム学の教育方針を確立していくと、モスクの近所では明らかな成果が表れはじめ、思いやりと自己啓発が広まり、人々は無知蒙昧な振る舞いから高潔さと光、神智へと移し変えられ、高められていったのです。

アミン・クフターロー師は1938年に亡くなり、父の指導法をさらに深めたアフマド・クフタロウ師が後を継ぎました。彼の宣教活動はダマスカスを網羅し、やがてはシリア全土、そして世界のほとんどを訪れる中で遂には世界全体へと広がっていきます。各地の国際的大学で講演をし、国や宗教、政党を異にする何百もの訪問者や使節団と出会ってきました。彼はこうした活動を通して、表面的な部分をないがしろにすることなくイスラームの本質に集中し、深遠かつ正しいイスラームの理解に基づいた独特な世界的方針を打ち立てようとしてきたのです。

社会の建設と発展に寄与して世の中に役立つ人間をつくりあげるといった、文明的なイスラームのメッセージを理解することに注意を傾けたのでした。

また彼は、イスラームの普遍性をとくに強調しています。この普遍性は、強き者が弱き者を覆い尽くしてしまうのでも、支配してしまうのでも、武力に恵まれたからといって強い者が正しいなどという考えを広めるものでもありません。イスラームの普遍性とは、正義と慈悲の普遍性をいうのです。

すでにイスラームは、14世紀以上も前に無知の



闇とまやかしへの従属に革命を宣言し、迷信や犯罪からは遠ざかって、人々が道徳的な価値観と共に高度に文明的な生活を送る人間社会の建設を始めていきました。

イスラームが説いたのは、神を純粹に唯一のものとするのであり、偶像や王侯貴族、祭りあげられた偽の神に仕えることの代わりに、万物の主アッラーのみに仕えることでした。

イスラームは、最高の人格とは何であるかを全うするために到来し、誠実かつ正直であること、契約には忠実であること、善行に励み、貧窮者や孤児、老人や未亡人、病人や障害者を思いやることを命じたのです。

また、弱者や抑圧されている者を助けること、奴隷の解放、商売と貿易は許しても、利子や盗み、ごまかしや独占、詐欺も禁じています。同様にイスラームは、不義や憎しみ、抑圧を禁じ、権利と正義、平等の秤を定め、親孝行を命じて親不孝を禁じ、結婚を奨励して姦淫(婚外交渉)を禁じ、良きものを許し、汚らわしきものや人間にとって害となるものを禁じました。

さらにイスラームは、人間の権利と義務を定めてそれを守り、肌の色や国籍、信仰の違いだけで人間を不当に差別することを禁じました。かつまた学問や芸術、善行や他人に親切にすることでの競い合いを奨励し、女性や子供に気遣って世話をすること、不義や憎しみ、無理強いから守ることを命じました。

歴史上イスラームは、無知や貧困、そして病との闘いで何度も勝利してきました。その最初期が、約23年間の預言者ムハンマドの時代でした。その中で、アラビア半島の諸部族は、文明的な一つの共同体へと移り変わり、安全で都市的な生活を送るようになって、真理、正義、平等の価値観が栄えたのです。

まさにイスラームは、より完成された人間文明の建設を目指して、他の文明との共存共栄を可能にする

文明を生み出したといえます。いみじくもそれは、イスラームの使徒ムハンマドの言った、「わたしは教育者として、最高の人格を完成するために遣わされたのです。」という使命に倣っての実践でした。

ムスリムたちはギリシャやローマ、シリアやインドの古書を翻訳することに努力を傾け、医学や数学、天文学や化学、論理学や社会学、文学や芸術といった分野で学問的研究の法則を発見しました。それによって今日でもその成果を垣間見ることができるほどの人間文明の基礎を築き上げたのです。ムスリムの学者たちが成し遂げた偉大な知的業績の中でも有名なものを挙げると、ヨーロッパでは19世紀まで教科書として使われていたイブン・スィナーの『医学大全』、代数と対数のフワーリズミー、眼科医学のイブン・アル＝ハイサム、今日でもいまだにヨーロッパの大学では社会学の教科書として使われているイブン・ハルドゥーンの『歴史序説』、化学で有名なイブン・ハイヤーン、そして哲学のイブン・ルシュドとイマーム・アル＝ガザーリーがいます。

言及しておくべきは、数学や現代の情報処理革命の基本であるゼロの発明も、最初にそれを発明したのはムスリムであったということでしょう。

完璧なイスラームの社会システムは、充足と正義の社会を実現しました。歴史的証拠のひとつとしては、ウマル・ブン・アル＝ハッターブがマディーナにおいて裁判官の任務を担ったときのことが挙げられます。彼は二年近くそこにいましたが、訴訟にやってくる者は誰もいなかったため、裁判官をやめてカリフに言ったといひます。「一人一人が皆自分の分を知ってわかまえている民のもとに、私などは必要ありません。」

もうひとつ史実をご紹介します。第二代目カリフのウマルに、エジプトのコプト教徒の農民がエジプト総督の息子についての苦情を訴えたときのことです。その農民がエジプト総督の息子に徒競走で勝ったからと、「貴族の息子であるオレ様をだしめくつもりか!」と言って棒で殴られたというので

す。カリフのウマルはすぐさまエジプトからマディーナへと彼を父親と共に呼びつけ、キリスト教徒でエジプト人の農民の主張が正しいことがはっきりしてから、ウマルは農民に鞭を与えて、「その貴族の息子をお前が殴られたように殴り返せ」と言いました。農民は総督の息子を殴りましたが、ウマルに二つ目の鞭を渡され、「その者の父、エジプト総督を殴れ」と言われて言い返しました。「信徒たちの長様、もう私は私を殴った者を殴りました。」この者は父の威をかりてお前を殴ったのだ。」カリフのウマルはそう答えると、エジプト総督に向かって言いました。「生まれるときは皆自由人として母親に産んでもらうのに、お前はいつ人々を奴隷にしたのだ!？」

文明的な話をもう一つ。ウマイヤ朝のウマル・ブン・アブディール＝アズィズ時代のことです。ウマイヤ朝の公務員は各市町村を歩き回り、「貧しい人はいないですか?」「独身の人はいますか?」「借金を抱えている人はいますか?」「何かを必要としている人はいますか?」等々と聞いて回りましたが、困窮を訴える者は誰もおらず、(市民のためにある)ザカーのお金を受け取ろうとする人は誰もいませんでした。公務員は職場に戻り、「人々は満ち足りていて、何も必要としていません」とカリフに報告するだけであったといひます。

こうした模範文明的成果は、人類史上に燦然と輝く分岐点であり、こうした文明の奇跡とも呼べるほどの事実を実現させたイスラームの規範と手段、方法論に注目して立ち止まり、研究と再評価を迫るものでしょう。

イスラームは、人間の存在に必要な基本的要素を守るため、安全で豊かな生活を守るためにその真意と目的を明確に定めています。そして実際に公益と社会の改善を誘い、有害なものを斥けるための真意を具現化すべき実践を命じているのです。

宗教(信仰)の保護。(宗教とはつまり信条と規範であり、崇拜行為の実践および社会関係や人

間関係において最善の状態をもたらすべきシステムのことをいひます。)

理性の保護および育成。健全で賢く、統率力があって自らの言動をコントロールできる人、そして生産的で発想力に富む人となるため。

生命の保護。民衆の間で殺人が慢性化しないため。

血縁の保護。血縁とそれに関わる権利を失わず、人間の生活が、密林の原始的で野生動物的なものとなってしまうわないため。

財産の保護。アッラーが人の生活を保障する手段とされた財産を守るため。

さらにイスラームは、真理を見定めるにあたって自分勝手な思惑や欲望に従うのではなく、謙虚で無心になるべきであるとも説いています。そして悪の囁きから、自我を清めることも奨励しています。

またイスラームは、専門的分業の重要性も説いており、誰であれ完全な真理の体現者であるとか、完全な知識の体得者などという主張は認めていません。

それから、権利と義務における男女間の平等も説いています。

イスラームは、人間社会のあらゆる階層における相互交流の重要性をも強調しています。自分本位になりやすい人間の心が、交流の意志を消し去ってしまうないように、人間同士の交流を円滑にするには敬神の念が大切なのです。

クルアーンは高らかに謳い上げています。

「人々よ、まことにわれは汝らを一人の男と女から創造し、お互いに知り合うために民族と部族とに分けた。汝らのうちアッラーの御許で最も尊いのは、アッラーを最も畏れる者である。まことにアッラーはすべてを知り尽くされる御方。」(第49章第13節)

ムスリムではない人たちへの接し方やもてなしについても、至高のアッラーは次のように言われています。

「信仰を違えるからといって争いあうことなく、汝



らを迫害したりしない者たちに、親切にし、公正に対応することをアッラーは禁じたりはしない。まことにアッラーは公正な者たちを好まれる。(第60章第8節)

このように私たちは、イスラーム諸規範の源泉に具体的に明記されている基本をもとに、イスラームとその明瞭な教育方針を理解するのです。

最後に、私がこうしてこの素晴らしい大学の演壇に立たせていただいた中で、大学関係者や研究所関係の方々一言申し上げたいとすれば、それはイスラームがいかに人類に貢献し、安全を実現してきたか、イスラームそのものとその文明史上の役割を見直してみたいということです。そして願わくは至高のアッラーが大学関係者の方々に、至高にして唯一なる神の方針、希望実現のためのまっすぐな道を選ぶことを触発してくださるよう祈ります。

文明間の衝突や争い、誰のためにもならない破壊的な戦争への選択の代わりに、文明間の共存共栄を目指した対話を選ばれることをも願います。

そしてできれば皆様にシリアを訪問していただき、私たちの学院で客人となっていて、実際に近くで私たちがどんな生活をしているかをご覧いただけたらと思います。兄弟姉妹の皆様、私たちは皆様と同じように人生を愛し、皆様と同じように対話を好みます。私たちも皆様方のような思いやりに溢れた友人を持ちたいと願う、同じ人間なのです。

ご清聴ありがとうございました。皆様方のご活躍と成功を祈りつつ、講演を終わりたいと思います。

皆様方に平安がありますように。